

ミカ書 ミカは南王国ユダのモレシエテ  
という小さな町に住んでいました 預言者イザヤと同じ時代のこと  
です イスラエルが北王国と南王国に  
分裂してから長い時間が経ち どちらの王国もイスラエルの神  
との契約を破っていました ミカは神がアッシリアという凶悪  
な大帝国に北王国を破壊させ エルサレムを侵略させるだろう  
と警告しました またそのあとにはバビロンがやって  
きて さらに甚大な被害をもたらすとも  
言いました 他の預言者と同じように  
ミカは神の代弁者としてイスラエル を非難したのです  
3章では彼は私は力と神の霊公正 と勇氣に満ち  
イスラエルの背きを告げると言っています  
本書の内容の大半はミカによる イスラエルへの非難と  
神の裁きが下るという警告です しかし同時にその警告とは真逆  
の希望のメッセージも語っています 神は裁きを下すけれどもその後  
回復をももたらすというのです では詳しく見ていきましょう  
最初の2つのセクションの内容は イスラエルとその指導者に対する  
ミカの非難と警告です 冒頭では  
神がシナイ山に現れた時のように イスラエルに現れる様子が  
詩の形式で綴られています 火と煙が立ちのぼり地震が起こり  
ました しかし今回は神は契約を結びに  
来たのではありません イスラエルの 500 年以上にわたる  
背きに裁きを下すために来たの ですミカは  
反逆の罪の裁きを受けるべきいくつもの街の名前を挙げていきます  
神はこれらの町を裁くために来る のです  
具体的にはどんな罪だったのでしょうか ミカは指導者たちの罪を挙げ彼ら  
は強欲に人のものを奪って 富を得たと言い  
第一列王記 21 章でアハブ王がナボテのぶどう畑を盗んだ時と比べ  
ます更にイスラエルの預言者たちにも罪がありました  
彼らは神の名を売り物にし料金を支払える人は守られると唱え  
ましたミカはこれを否定します 神はイスラエルを守ることはもう  
しません 二つ目の非難のセクションでは  
イスラエルの指導者と預言者の不正を更に糾弾します  
彼らはワイロをせしめて金持ちに有利なように正義を曲げ  
貧しい者は土地を奪われ安全な暮らしも希望も奪われます  
そしてこれらのことは たとえ貧しい者であっても先祖

から受け継いだ土地を 売ってはならないと定めている  
トラーに違反します そのため神の裁きは今北王国を  
侵略し エルサレムとその神殿を破壊する  
暴虐的な国を通して実現しようとして いるのです  
これらの警告は非常に厳しいもの ですが  
それで終わるものではありません 警告のセクションにはいずれも  
希望の約束が続きます 最初の詩は神が羊を助け散った  
群れを集める羊飼いのように 残された民を集めてくださるということ  
をうたっています 羊飼いなる神は民を牧場に連れ  
戻し 再び彼らの王となるのです  
2つ目の警告のセクションは 荒れ果てたエルサレム神殿の様子  
で終わっていますが これが永遠に続くのではないと  
ミカは言っています いつの日か神が神殿を建て直し  
そこには神の臨在が満ち 街は残された民でいっぱいになります  
イスラエルを天と地の出会うところ にするのが神の目的なのですそう  
すれば諸国の民がエルサレムに 集まり  
そこでは神が諸国の王となり地 に平和をもたらすのです  
希望をうたう2つの結びの詩は力 に満ちています  
次のセクションはこれらに続き 見事な構成の一連の詩が  
イスラエルとすべての国の未来の 希望について記しています  
アッシリアのあとにはバビロン が攻めてきて街を征服し  
民を捕囚にしてしまいます しかし神はご自分の民を回復し  
彼らの国へ帰してくださるのです そして新しいエルサレムには  
ダビデの子孫であるメシアなる 王がやってくるのです  
王はベツレヘムで生まれ その後エルサレムで回復された  
神の民を治めます そしてこのメシアが治める神の王国  
に住む 神の忠実な残された民たちが全  
世界への祝福になるのです 同時に神の最後の裁きも下され  
世界から悪が取り除かれます 最後のセクションは最初のセクション  
と同じように 警告のあとに希望が語られるパターン  
に戻ります ミカは再びイスラエルの指導者たち  
による不正な富の蓄え方と それがこの国と民をいかに荒廃  
させたかを暴きます そしてミカはここで  
イスラエルが神に従うとはどういうこと かを要約した  
有名な言葉を残します 人よ神は告げた何が良いことで  
神は何を求めているかを 公正を行い慈しみを愛しへりくだ

って神と歩め これはまさにイスラエルがして  
こなかったことでした だから滅びに向かっているのです  
しかしこの書は最後にもう一つの 希望について記しています  
擬人化されたイスラエルが恥と 敗北にまみれて孤独に座っています  
これはイスラエルの破滅と捕囚 を表しています  
そして擬人化されたイスラエル は神のあわれみを待ち望み  
自分の声を聞いて赦してください と願います  
いったいどうして神は この不誠実で反抗的な民を赦さな  
ければならないのでしょうか 著者はその理由を 2 つ挙げています  
一つ目は神のご性質のゆえです あなたのように背く者の罪を赦  
す神がほかにいるのでしょうか 著者は神のあわれみは  
神の怒りと裁きよりも強いことを 知っていたのです  
2 つ目の理由は神の約束です あなたは昔誓ったようにヤコブ  
に真実であり続け 契約の愛をアブラハムに示します  
と著者は言います これがこの書の最後の言葉であり  
ずっと以前の創世記にある アブラハムとその子孫と結んだ  
神の契約を示唆しています その内容は  
すべての国はアブラハムを通して 神の祝福を見出すというものです  
しかし国々への祝福となるためには イスラエルはまず神に誠実でなければ  
なりません だからミカ書は裁きと希望の間  
を行ったり来たりしているのです もし神がイスラエルを通して国々  
を祝福しようとしているなら 神はイスラエルの罪に立ち向かい  
裁かなければなりません しかし神の裁きは希望へとつなが  
ります 神の契約の愛と約束は人間の罪  
より強いからです 神の最終的な目的は滅ぼすこと  
ではなく 救い贖うことです  
そして本書の結びにあるように 神は恵みを喜ばれもう一度あわれ  
みを示し 私たちの過ちを踏みつけすべての  
罪を海に投げ込むのです これがミカ書です

Chat GPT 500 字要約

「ミカ書」は、南王国ユダの小さな町モレシェテに住むミカによって書かれた預  
言書で、彼は預言者イザヤと同時代に活動しました。この書は、イスラエルが

北王国と南王国に分かれており、どちらも神との契約を破っていた時代の出来事に焦点を当てています。

ミカは、神がアッシリアという大帝国によって北王国を滅ぼし、その後バビロンが来て更なる被害をもたらすだろうと警告しました。彼は他の預言者と同じく、イスラエルの背信を非難し、神の代弁者として立ち上がりました。

ミカは、イスラエルとその指導者に対する非難と警告を述べており、彼らの強欲や不正、神への背信を告発しています。一方で、ミカは警告とは逆に、神の裁きの後にも回復と希望があることを伝えました。神は裁きを下すが、その後に回復があると述べています。

「ミカ書」は、イスラエルの破滅と神の裁きについての警告だけでなく、神のあわれみと希望についても語っています。神が民を回復し、エルサレムに平和をもたらし、世界に祝福をもたらすという希望的なメッセージが描かれています。この書は、神の裁きと神の愛に焦点を当て、イスラエルとその指導者の誠実さの重要性を強調しています。最終的に、神は恵みによって罪を赦し、救いと贖いをもたらすことを示しています。